

## 日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会議

日 時：平成27年10月31日(土) 14:00～16:00

場 所：宮崎観光ホテル

発表者：大分県医師会男女共同参画委員会

委員長 谷口 邦子

報告者： 同上 副委員長 安武 千恵

### 1. 日本医師会女性医師支援センター事業について

- ① 日本医師会女性医師バンク 運営状況 (H27.9.30現在)  
求職登録者数：756名 求人登録施設数：2,001施設  
就業実績：441件 (就業成立：423件, 再研修紹介：18件)
- ② 2020.30実現を目指す地区懇談会 (今年度から) 開催状況  
10月31日までに29件。来年1月17日までで36件
- ③ 平成27年度「医学生, 研修医等をサポートするための会」開催状況  
医師会だけでなく各医学会でも開催され, 来年2月19日までに53件
- ④ 平成27年度「女性医師の勤務環境の整備に関する病院長, 病院開設者・管理者等への講習会」開催状況  
来年1月30日までに16件
- ⑤ 平成27年度 大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会  
平成27年12月18日(金) 日本医師会にて開催予定

### 2. 各県における女性医師支援の活動報告

- ① 沖縄県：沖縄県独自の取り組みとして, 女性医師部会が要請のあった各病院に直接出向き, 病院管理者と研修医, 女性医師等で職場での問題点を話し合うプチフォーラムを開催している。問題解決に即効性の効果があり, 成果が出ている。
- ② 大分県：女性医師が働く環境を整備することで, 若い医師がより多く大分県に残ってもらうための「女性医師等勤務環境改善協議会」の報告を行った。行政や大学との連携が重要で, 今後の活動に繋げたい。
- ③ 長崎県：県医師会は保育システムの構築に力を入れており, 利用者の登録・保育サポーターの育成・マッチングを行い, 長崎県内の保育サポートマップの作成を予定している。長崎県は大学-医師会-県社会福祉部が良好な連携関係にある。医学生・研修医には医師会弁当付きで, 医師会活動の広報を行っている。
- ④ 熊本県：今まで女性医師支援活動は遅れていたが, 平成26年度から「熊本県医療人キャリアサポート クローバーの会」を発足した。今年5月に熊本県医師キャリアサポートブック「CLOVER」を作成した(福岡県医師会発行の「Pas a pas」(パザパ: 仏語で一步一步)を参考に)。

熊本県内の100床以上の病院で働く医師（男性347名、女性87名）へのアンケート結果の分析報告があった。

- ⑤ 福岡県：女性医師サポートブック「Pas a pas」第2版を作成したが、第1版より38病院が増え、119病院が掲載された。特に「院長先生の応援宣言」が好評とのこと。また女性医師支援活動10周年を迎え、福岡県医師会報5月、6月号連続で特集が組まれた。保育コンシェルジュによる無料相談の利用が少ないため、県内4大学同窓会に広報を依頼した。
- ⑥ 鹿児島県：南風病院が紹介され、整形外科女性医師が院長直轄の「女性いきいきプロジェクト」を立ち上げて、病院で働く多職種の女性で職場環境改善に向けた活動を続けていることが報告された。
- ⑦ 佐賀県：佐賀大学男女共同参画委員から佐賀大学医学科4年生(回答者93名うち男性：45名、女性：48名)のアンケート結果が報告された。「医師免許を持つ女性が育児のために離職すること」について男女とも約70%が「医師である前に一個人なのだから、いかなる人生も本人の自由だ」と答え、「専門資格を取得したいか」について女性の10%が「思わない」と答えた。教育する側として、医師としての使命感や誇り・やりがいについての教育の必要性を痛感したとの事であった。
- ⑧ 宮崎県：学生向けセミナー「医師を目指す学生のためのトワイライトカフェ」を附属病院内のカフェで夕方軽食付きで開催したところ、学生と医師25名の参加があり盛会であった。保育支援として、急な出張や残業時に安心して子供を預けられる「医師会版ファミリーサポートシステム作り」を既存の「みやざき子育てサポートセンター」と連携して進めている。県北女性医師の会にも参加した。



### 3. 日本医師会女性医師支援事業連絡協議会(平成28年2月)における九州ブロック会議の報告者について

宮崎県医師会担当者に決定した。

### 4. 次期開催県について

沖縄県に決定した。

各県の活発な活動も参考に、大分県医師会男女参画委員会は今後も女性医師の支援に取り組んでいきたいと考えます。

二年後の平成29年は、大分県がこの九州ブロック会議の担当県となります。担当委員全員で取り組んでまいりますので、皆様のご協力のほど宜しくお願い申し上げます。